

最優秀賞

山城高校に望むこと

太田晃史

山城高校が創立されて百年という年月が過ぎた。百年も経てば、その間に大きく世の中は動く。私たちにとっては、既に「歴史」の勉強の一部と化している第二次世界大戦をはじめとする、多くの出来事を山城高校は見てきたということになる。百年というだけなら何も難しいことはないが、社会が大きく変わっている今日でも、一つの教育施設という働きを失わずあり続けるのは、本当にすごいことだ。その山城高校がこれからも長く続いていくためには、やはりそこに関わる人たちが、さらに高いところを見すえた向上心を持ち、悪い部分から目を背けずに改善していく気持ちで、持ち続けることができるかにかかっていると考える。これからの山城高校、百年後の山城高校のためにも、最近多い問題について触れて、様々なことを考えていきたい。

流行というのは、今まで見向きもしなかったようなものに対して急に興味を持たせ、たちまちに「ハマる」という状態にする力を持っている。それは良い方に働く力でもあるが、悪い方へ導く力になってしまいうこともある。例えば髪の毛を染めるということである。この行為は明らかに流行というのに乗った結果である。髪の毛の色を変えようなんて、芸能人や周りの人がしていないかぎり考えもしなかったことだろう。つまり髪を染めるという行為は、自発的な行為だと考えがちだが、結局は流行に乗っかっているだけなのだ。このように、流行というものの怖さは、あたかも自発的にやったと思わせてしまうところにある、それは流行の力でもある。この力というのは、時には暗い闇に手を伸ばさせてしまうことがある。飲酒や喫煙も、流行というものとは違いますが、周りからの興味深い情報や誘惑が、その人を虜にさせる意味では近いものがある。これらの様々な誘惑の中には、悪魔の誘いもある。その一つは、近年問題になっている薬、特に麻薬と呼ばれる中毒性の非常に強いものである。麻薬の危険性については、学校で何度も教えられている上、社会的にいつてもその恐ろしさは誰もが知っていることだろう。では、なぜその麻薬に手を出す人がいるのだろうか。麻薬というのには、依存性があり、一度体内に入れてしまうと、麻薬なしでは生きられなくなってしまう。麻薬で自分をぼろぼろにし

て、後悔なしですむ人なんているはずがない。自分を壊してしまふかもしれないという恐怖よりも、流行の力に似たものに引きつけられ、興味本位で、「一回ぐらいなら」となってしまう心は問題である。これは他の様々なことにも言える。好奇心や興味本位だけで行動すると、失敗や後悔も多くなる。かといって、自分の好奇心を押し殺して損得勘定だけをしてとる行動はつまらない。一番大切なことは、自分の強い意志を持つことである。たとえ周りが甘い誘惑があつたとしても、それを自分なりの分析を加えた上で、自分で決めた道を進むことがもつとも大切なのである。

山城高校という一つの建物には、ものすごくたくさんの人がいる。過去も現在もそして未来もそうあり続けるだろう。この山城高校を支えているのは、百年という長い時間の間に山城高校に関わつた、在学した、勤めていた等々、数え切れない多くの人だろう。しかし、多くの人がいるからといって、また一人の力は微力だとして、支えない人が出てきては、支えきれない。一人一人の力がとても重要なのだ。先程述べた強い意志を持ち、自覚ある行動が、一人の例外もなくできるようになれば、山城高校は、さらなる伝統校としての飛躍を遂げるだろうし、そうなることが、山城高校に関わってきた多くの人たちの望みだろう。これからの山城高校は、未来の山城高校の生徒をはじめと

する、多くの人が支えていくだろう。その一人一人が強い意志を持ち、困難を前にしたときには、互いに支え合える、そして互いによい意味で競い合って、高いレベルを目指してほしい。そしてそのような人を大切する気持ちだけではなく、ものも大切に、そして社会的にも役立てるようなことも進んでやってほしい。社会も学校も人が支えるものであるという自覚を持って、山城高校が長く続くように、現在そして未来に山城高校に関わる人たちは行動して欲しい。



山城高の校章